

曉

No.3



新川町青年分團報

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 6

桶公壁書	現下青年運動の目的並に奔走經過の概要	佐藤桂仙	(一)
國家非常時に際し我等青年の覚悟	平青年團綱領	藁谷喜太郎	(四)
過去漫文	新川町分團優勝の記	丹野徳好	(五)
依頼心を捨てよ	依下國降機勢と我等の覚悟	佐藤久治	(八)
現下國降機勢と我等の覚悟	氣まぐれ加ら	森根井久馬	(九)
野球手引草	野球手引草	北露生記	(二)
平町青年團探勝旅行に加はりて	壘も積れば山となる	柳本生	(三)
新青年チーム主將S君に與ふ	表紙に就いて	藁谷北露記	(六)
亡ぶ肉塊	分團誌	ワラガイ生	(四)
火防誌	火防誌	北露	(五)
團名簿	年のをほりて	霞乎	(六)
編輯を終りて		Kワラガイ	(三)

君の爲め身を捨つるを忠といふ親の心に
背かずよく事ふるを孝といふ老たるを敬
ひ士卒を撫育し國民を憐むを仁といふ一
度諾して變せず始終全き義といふ謙退讓
を禮といふ謀を帷幕の中にめくらし勝つ
ことを千里の外に施すを智といふ假りに
も虚言を構へす信を失ふ可からず遠慮な
き時は近憂あるべし萬事に愆へす屈せ
す過を改むるに憚ることなかれ邪曲輕薄
の人と交る可からず大酒は失多し色情は

☆表紙に就いて
 ちふ肉地
 分団誌
 火防誌
 団員名簿
 年のをばり
 縮輯を終りて
 北
 霞
 乎
 露
 Kワラガイ

東宮殿下御渡歐記念

贈正一位楠公壁書

君の爲め身を捨つるを忠といふ親の心に
 背かずよく事ふるを孝といふ老たるを敬
 ひ士卒を撫育し國民を憐むを仁といふ一
 度諾して變せず始終全き義といふ謙退讓
 を禮といふ謀を帷幕の中にめぐらし勝つ
 ことを千里の外に施すを智といふ假りに
 も虚言を構へず信を失ふ可からず遠慮な
 き時は近憂あるべし萬事に愁へず屈せ
 す過を改むるに憚ることなかれ邪曲輕薄
 の人と交る可からず大酒は失多し色情は
 身を亡ふ心ひむは嫉妬偏執の深きなり
 儉約を専らしし驕を慎み人の非を見て
 我身の行を正すべし我愚なるが故に壁に
 書して慎みとするのみ

大正十年

新川町青年會謹寫

東京如く

この十年の間に、我が國は驚くべき進歩を遂げ、
其の勢力は東洋の中心にあり、世界の
政治に重要な地位を占め、全人類の幸福を
爲すに努むるべき國民となつた。この
偉大な進歩は、國民の団結と努力の結果
である。我々國民は、この偉大な進歩を
更に進め、世界の平和と幸福を爲すに
努むるべきである。

現下青年團運動の目的

並に其の發展途徑經過の概要

● 正副青年團副團長 ● 後藤 桂仙

我國の青年團は法規に依て設立せられたる團體ではないが、大正四年と大正七年に内務省文部省は各府縣及び北海道廳に訓令を發し、之が奨励指導並に振興奨励に關し其の方針を明示し、大正九年には更に「青年團体の發達を助成するに奮勵努力せしむる訓令を發せし事に依て官廳の真剣味も一段加り、官民一致の熱誠に依り急速の進展を見るに至つた。然して大正四年の訓令は青年團の性質職能を次の如く示して居る。青年團は青年修養の機關なり。其の本旨とする所は青年をして健全なる國民、善良なる公民とするの素質を得せしむるにあり。隨て團員をして忠孝の本義を体し品性の向上を図り体力を増進し、實際生活に適切なる智能を研ぎ、剛健勤勉克く國家の進運を扶持するの精神と素養とを養せしむるは刻下最も緊切の事に属す。其の志をして事業に當り實務に従ひ、以て練習を積ましむるものも亦素より修養に資せしむる所以に外ならず之に依て青年團の機能は特に鮮明せられざる感を覺ゆ。

次に大正七年の訓令は、今や世界戦亂の衝動は汎く精神上並

に経済上の各方面に抛擲し、殊に国民思想上の刺戟に至りては一層深甚なるものありんとす。凡そ今日や青年団体の現状に顧み、之が健全なる存続に資す可き當今の要項を條擧し以て地方の実況に照し、参酌其の宜しきを制せしむる事を期す。となし其の中には讀書趣味を進め、体力を増進するは国家活力の要素なりとなどと稱し居る。特に公民教育に關しては凡そ公民の精神を養ひ公民たるの性格を陶冶するは、青年の教養に於て欠く可からざる要細なり。此の意味に於て賛分団修養會が、公民教育の普及徹底に關しむるを本則とす。此の太正九年には明治神宮御造營成り、造營工事に勞力奉仕したる全国青年団代表の参拝に際し皇太子殿下(今上陛下)は凡そ國運進展ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須ツコト多シ、諸子能ク内外ノ情勢ニ顧ミ返ニ其ノ本分ヲ盡シ奮勵協力以テ時期ノ國的ヲ達成スルニ勗メムコトヲ望ムとの今言を賜り、此の光榮を機として全国青年団の協力を以て其の精神を表徴するに足る

青年館建設の議が起り、全国青年団は二百二十三万余円を募金し、大正十四年青年館は明治神宮外苑に完成し、該団法人日本青年館と稱し、青年団中央部の事業を継承すると共に同年大日本聯合青年団の創立を見其の事務所を、に置くに至り、大正十四年五月御文瑞滿廿五年祝典を奉ぜせらるゝに際し、御内帑金七十五万円を全国男兒青年団に事業奨励の思召を以て下賜せられ、同年十月には同大日本青年館事業奨励の思召を以て御内帑金十萬円下賜の殊恩を蒙り、政府當局の青年運動に對する指導奨励の上に一段の光彩を放ち、分団を單位とする大日本聯合青年団は統制ある今日の進展を見るに至つた。然し乍ら靜に省るに現實の我運動は、幼児が父母の手を引かれて歩行する壁を脱し得ぬきらいなしとせぬ、吾人青年は自治創造の氣風を養ふ事は特に緊要の事に属す。將來に残されたる我運動は此の今日の不備を補ひ、紳士愛の精神と自主獨創の氣風以て優秀國民として國より良き公民としての資格を具備し、然して社会公共の福祉と安寧確保の爲に献身努力する事こそ我等の使命なりと信ず。

十一月廿一日燈下之記



(完)

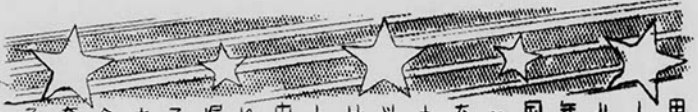
國家非常時に際し 我等青年の覺悟

分團長 藥谷喜太郎



非常時に至るは意味深き新熟語
正生んが一加三二年は將に暮
れなんとしてゐる。
顧みれば実に我が國にとつて
多事多端の年は近年類ひなき
ものであつた。さればこそ非
常時なる言葉さへ用ひられ。
まことに國家存亡の秋と謂
ねばならぬ。
今や日滿親善なりて東洋平和
確保の第一歩として、若々其
の實を挙げつゝあるも、列國
の視線は滿洲國承認問題を中
心として、單縮會議に、聯盟

理事會に時局は益々複雑多難
なる中に投せられ、加ふる
に内國は史上空前の經濟困難
思想困難に直面して、皇國は
興衰の岐路に立ち大衆はどん
底に迷ふ状態となつたので
ある。斯る非常時に當り國難
打開の大業を擔ふものは誰
ぞ、それは實に吾々青年に與
へられざる榮幸である。然れど
もこの榮幸と重なる任務を
思ふ時に、これを果すの修養
に一層格段の努力を要すべき
事を痛感するものである。



畏れ多くも聖上陛下が皇太子
として攝政の重任に當らせら
れおはします時、満天下の青
年に下し賜りたる御旨に
國運進歩の基礎ハ青年ノ修養
ニ須ツコト多シト宜ヘられ
た。この御言葉に對し奉りて
も、吾々は尚に修養を怠らず、
外に自己の本分を守り、外に
は世界正義のため、断々乎
として勇往邁進すると共に、
内には国力充實のため、眞剣
に努力を惜しまず、一致協力
遍やく新日本建設に献身力め
る覚悟であらねばならぬと信
ずるのである。
今や青年報國の機運は迫る。
奮起せよ……正義に燃ゆ
る青年諸君！

平町青年團綱領

- 一 青年の反情と愛郷の精神によりて團結す。
- 一 己身を修練し勤勞を樂み自主創造の人たるを期す一清新の意氣を以て愛と正義のために奮闘す。
- 一 忠孝の本義を体し献身奉公團體の進展に盡す。
- 一 人道の大義に則り世界の平和と人類共榮に努む。

過去漫文

丹野徳好

十年前一昔との僕が當時の新川町青年会の一員として末席を汚してのはあの好景氣熱さめやらぬ世は拳けて戦捷、日本成全国として浮き立って居た大正九年丁度一昔も以前の話である。仰々哉新川町は江名豊岡の漁村、高又飯野夏井の農村等の産物、否總てを吞吐する平町辰巳の重要限門で有る事は昔も今も変りが無いが當時の重要交通の工務を占める馬車挽が掛茶屋でワンコツを引掛けて意気揚々、詩的なメロデーあの馬子唄も今では

自動車の機械的騒音に受つて仕舞つた。文化進みて情薄しとの幸に我等の町は昔も今も純朴なる青年のみの集りぞ。何時も平和を町自治体として何時の時代も他町に先じて居る。地球は廻る當時の東宮殿下が新智識を外国に求め外遊より歸られしのが大正十年。御代は大正より昭和へ變りて七年も終らんとす而都大震災で救護班を停車場前廣場に設け罹災者收容奉仕をしたのも昨今の様で有るが今や既に世界に誇る大東京は建設されたる有る。

第三小学校問題で我が町の幹部善が盡力せられしも数年前の話と成つて現に八百有余の児童を包含して居る。當時の大部分の人は半スル以上の子弟の誤業視

してスホーツの何ぞを解し得なかつたのが時代は体育部の設置に依つて之を普遍的ならしめ修養部又他町に先鞭を附ける等実に固まぐるしい程急テンポの推移が吾々の青年団に町に社会に實に一昔の過去は夢の様で有る併し努力なくして何の発展も有り得べきで無い。先輩各位の多大なる努力は幾多の業績に依りて立証せられて居る。翻へつて個人たる己を省り見る時、當時は十九年過去スラス十二年只無易に年齒三十を越して居る。

一昔の社会発展のスピードと己の運歩との懸隔の甚だしきは実に悔みざるを得ない。然らば何に依りて社会に添つて進み行く事が出来得るか我等の向上には何よりも讀書に待つべきものなりし

との見解から数年前に朝日講座巡回文庫の設立を見向未昨今の様な殊に冬季の夜長には一日の労苦を慰し乍ら愉快に讀書に依つて幾分でも智的向上を計る又何と幸福ならや。が併し有意義なる文庫も徳義になき人の為有る無事に終る事ありば數せざるを得ない。今回報も第三号、圓を重ねるに従つて益々その内容の充実は編輯員各位の絶大な努力の賜でも有り。且又団員諸君の熱心がかくあらしむるものでも有る。何時でも振り返つて見た時、社会も吾々個人と同様の進歩向上が有りたい。先輩達が何路でも他町の範を北へ指導されを期待に反りむらん様、飽迄努力致したいと考へるものである。

(終り)



第三校学区内分団對抗競技

新川町分団優勝の記

体育部 佐藤又治

天高く気澄み渡る十月十九日、
 平第三中学校々庭に於て秋季運
 動会開催され、其の日の呼び物
 である通学区内青年分団對抗競
 技が行なはれ、新川町、鎌田、
 六丁、大工町の各分団より
 の出場選手は係員よりメダホン
 にて降出され、八百米競走のス
 タートは切られ、熱狂的観衆
 の観衆は満雷の如き声援に各選
 手は愈々スピードを出し初め、
 我が新川町選手は優勝を期し、若
 人の熱情と音楽の調子に益々猛
 走、
 観衆手に汗を握つての態、我

が選手は三チームを終始歴史的
 にリードし、栄誉ある優勝権は
 我が分団に獲得したのである。
 是れ所謂我が分団員諸君が如何に
 修養し体育に精進せらるゝ事か、
 想像出来得る、殊に新団員が増
 すと共に、我が分団の前途は益
 々有望なる事と大いに期待して
 なる、之に蒙り各分団長の熱烈
 なる御指導と団員各位の結束に
 よる賜と、深く感謝いたします次第
 である。
 終りに望んで団員諸君の今後一
 層御健康と努力の程を切望する
 ものである。



馬
 井
 馬

依頼に在る捨て

誰も知り切つて居る事であるが
 私は更に声を大きくして、青年
 諸君に「依頼」を捨てよと叫
 びたい。何なる事業を成すに
 も、他人の口をあてにしていた
 のでは其の目的は到底達し得な
 い。のみならず世の落伍者とし
 て哀れな末路を見るに至るので
 は無めうもの。
 例へば海岸に打上けられ一匹
 の海老があるとする、此の海老
 が潮の来るのを黙つて待つて居
 らぬ如何になるであらう。潮は
 肺がくればさして来るのは當然
 だが、其の間に太陽はかりかり

照しつけをら……勿論今までの
 の海老では無い、誰も見向きも
 しない蝦を晒さなければならな
 い。然し其の海老が他力を求め
 る特有の技巧を發揮し躍躍して
 波打ち際まで近づいたなら、あ
 の大海原も海老の天地でなくて
 何んであらう
 以の社会も更に吾々の活躍舞台
 でなくて何であらう。
 今や我が国は不況のどん底に有
 つて、此の難局打開は一に自力
 更生に在ると叫ばれて居る。我
 吾々青年は大いに覚醒し、以て
 自力を發揮して未来の光明を回
 指して、莫進する強固なる意志
 を有さなければならぬと思ふ。
 青年諸君よ、須らく依頼心を捨
 て、然して自力に生きて行かぬ
 はならぬと信す。

現下の國際情勢と 我等の覺悟

世界平和と人類幸福の殿堂たるべき國際聯盟は、今や各國勢力を張らんが爲めに正義を無視し世界平和の攪亂者たるも辭せざるに至り、聯盟に加入國たる某國は聯盟を用ひて惡逆なる手段を弄し、正義人道に猛進せんとする我が大日本帝國に威嚇の行動を取らんとす。國際聯盟が滿蒙問題を調査の必要ありとなしリットン一行をして實地踏査をなせしめ報告書は、認識の不足せる處甚多しく不公平なる旅行記にも等しき長文にて、結果は寧ろ今後の國際關係をして益々惡化せんとするの形勢なり。

日清日露の戦役以來東洋平和の確保に十有餘萬の生靈を犠牲とし巨萬の富を費して正義人道の上に得たる我が國の滿蒙に於ける利權を暴虐なる支那兵匪の危害を加へる儘になし得やうや。是れが安寧の爲にする我が帝國の行動に、何故他國が干渉すべき理由があらうや。表面世界平和の使徒の如く裝ひ軍備の縮少を叫びつゝも、内面東洋平和を攪亂し帝國を牽制

せんとする某國あり。神聖なる我が國體を赤化せんとする露國あり。或は種々なる手段に依り東洋に入り来らんとする英國あり。東洋を中核とする國際情勢は急を告げ自國の勢力を張らんが爲めには、世界の平和を破壊し人類の幸福を無視して邪道を歩みつゝあり。東洋の主權國たるべき大日本帝國に生を挙げたる我等青年は、この秋に當りいなく自己の責任を感あるなり。東洋永遠の平和と人類幸福の爲めに先輩は清國と戦ひ露國と戦ひ亦獨逸と戦つた。然しこの秋こそ我等青年は正義を叫び人道を唱へ、然して邪道は迷ひつゝある世界諸國を正して覺醒さすべく戦ひ争ふの覺悟を有せざる可からず現下の國際情勢よりして到底筆硯に依り論法に依つて所期の國體を貫徹する事は望み得ない。

三十年未だ皇統連綿たる上陛下の御威徳と、神國日本の御守護に依り統制を執つて惡魔的行爲を取てする諸國と大いに戦はねばならぬ。東洋平和を建設し維持する若東洋日本の我等青年において他に誰あらうや。混亂の國際情勢の現状を見つめて我等青年は皇國日本の爲め東洋永遠平和の爲め若き血潮を以て國基を固めるの覺悟を有するものなり。

佐藤福太郎君
吉田定太郎君
山名 隆雄君
三富 菊藏君
福本傳四郎君

諸君は入団以來此
處に幾星霜を送
り、愈々来る總會
に於て満期退団致
す事になつたので
あるが、退団後も
団のために宜しく
御援助の程、今か
ら御頼み致してお
く次第である。
野田 清君
君は家事多忙の身
にあつて、分団旗
手として其の職責
を完全に果たして

ゐる事は誠に感謝
の外ない。
高野 正次君
年若くして御南親
に別れを君は一家
の主幹として、其
の責任重且つ大な
り。益々自車自費
御奮闘を祈る。
鈴木 文雄君
新青チームの主將
次回の分団對抗野
球試合に、常冠を
目ざして精進せら
れん事を望む。
野本 孝雄君
君は新青チームの
レフトとして其の
守備は正に金城鉄
壁。自重して分団

野球部のために努
力を願ふ。
只保田英三君
分団第一の時局最
守者。時の感念を
き時、我が分団に
君あるが力強い。
鈴木 泰久君
青田 勝弥君
其に我が団が持つ
スパーツマン、益
々御活躍あらん事
を共に祈る。
××××××××××
全団員諸君の消息
を報道いたしをい
のです。紙面が
許しませんので、
此の位で失礼いた
します。



生 本 野

八、気まぐれから
前号に気まぐれから
色々の事を書いてみ
た。そして又気まぐ
れから悪と云ふもの
について書いてみる
あらゆる如的方面よ
り種々様々の方法を
分解しても、悪と云
ふものは可解なもの
だ。その不可解なも
のが昔しから今まで

いや永只に續いて行
くのを、その永只的
な不可解に疑問も抱
かずにゐる事は、誰
でもそれを知つてゐ
るから、それが知つ
てゐて説明の出来な
いと言ふ事は不思議
な事だ。私は今気ま
ぐれから悪と言ふも
のは、いかなる堅木
の幹にも蝕み込む不
思議な虫の様なもの
であると考えて見た
ら何故か、次の文で
答へておこう。
「これ迄——」と生
活上の仕事にのみ
余念のなかつた彼
の様な堅実な青年

の胸にも、あの日
以來彼女の嬌と夢
とに充ちた海が
腫が、唇が、声音
が浸み込んで了つ
た。——
気まぐれは悪と一種
の虫にして、了つた
おかしな事である。
七、生 業
復讐書を吾に頼める
その人の、顔のやつ
れ、寂しき顔のも。
八、旅行の趣味
静かな夜更けに時計
の音のみ聴き入つて
ゐると、ふと芭蕉の
句が思ひ出され、
旅に病んで夢は枯
野をわけめぐる。

一生を旅に終つた芭蕉。冬の来る度に私はあの詩人を思ひ起す。そして旅行をする。旅行の楽しさを、春夏秋冬、何時でもいかに旅行は芭蕉を誘惑した事か？

詩人でない自分でも、へも旅行の楽しみを想ふ。霞引く頃。花白く頃。青田の頃。裸の頃。稲の穂が頭を地に垂れる頃。雪降る頃。過ぐる汽車も過ぐる汽車も多くの旅行者を垂せて青空の下を、西に東に走つて行く汽車の旅程はあはた美しい旅はな

いならう。然しあの急激な変化を見せる事窓の眺め程。趣味のある楽しい眺めはないであらう。畑を耕す人。尚進んで物を見る人。その風景。凡てが異つてゐて他國と云ふ印象を深めてくれる。高層を建てる物を見るとき。これは何百年か前隆盛を極めたものであるかと思ふと、まのあたり其の事が現はれるかの様である。

野良を行く人達は、大きな筆を背負つて雑木林の中を歩んで行く。そして見も知

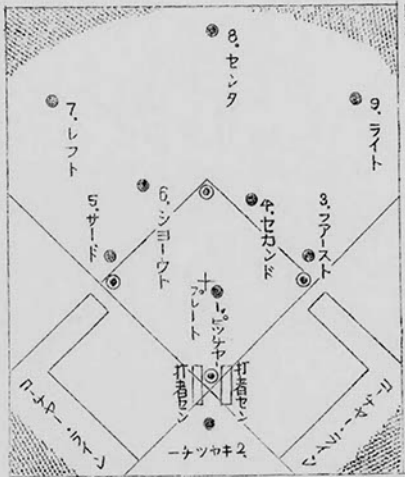
らない。私に声をかけろ。よいお天気です。私はなつかしい目でその人達を見送つた。旅行の趣味は其の風景を味はふ事にあるが。又其の人情味の暴露にもある。敢て見知らぬ人に親しくされる事ではない。けれども何んの不自然もない親しみが現はれた程愉快な事はないであらう。旅行に。旅行に。そこには各自個々の隠れた趣味を感じてらう。



野球守り草

橋本生

野球は九人以上あつて一チームを形成します。野球は紙様の田舎スポーツであるから全部の力が平均し融合しなくては強くなる事は出来まい。この辺のチームに六大学の名選手が加はつて試合を行つても勝つ事は出来まい。下手でもいつも気を合せて同じくして熱心に練習してこそ、強チームになる事が出来る。運動場は正規な球場になると本壘から中堅手の裏まで三百三十呎無くてはならないのである。然し廣さなどは苦に



する事は無い。運動場の規定を定めればよいのである。また四角な線を引いてここに四つの壘を置く。(插图参考) 野手の各守備位置(○は壘●は野手の守備位置)

ピッチャー
キャッチャー
一塁手
二塁手
三塁手
左翼手
中堅手
右翼手
左外野手
中外野手
右外野手

本壘
一塁
二塁
三塁

ピッチャーの位置は本壘から六十呎(約十間)と定められてゐる。どんな野球試



合でも六十呎六吋を原則として行はれるのである。守備位置を1から9まで。1が投手2が捕手3が一塁手4が二塁手5が三塁手6が遊撃手7が左翼8が中堅9が右翼。789は外野手。1から6までは内野手と云ふ。と云く試合は一方が守れば一方が攻める試合の立會人として審判官が捕手の後らゐる。此を(球審)と云ひ、各塁の附近に居るを(塁審)と云ひ、一々のスレーに生(レフト)死(ライト)を宣告する。攻めてゐる方のチームが三人アウトになれば、今度は守るのである。どうして打者が生まれるか死ぬか。一番多い例としては打者は投手から四つの

ボールを獲れば安全に一塁に生まきられる。その変り三つのストライクを得れば三振と云つて、その三つ目はたとへ打棒を打つて空振り、打をなくともアウトである。ストライクと云ふのは投手の投げる球が打者の肩より高くなく膝より低くなく、しかも本塁上を通つて球を云ふ。ストライクでない球はボールである。九人づゝの選手が攻め合つて、三人づゝ死ねば交替する。と云ふと野球はひどく簡単な競技の様をけといふ行つて見ると、此程むづかしい戦術や掛引きや頭腦の要するスポーツは他にない。まづ投手は敵の打者をして出来



るだけ凡打凡打退せしめる様、カーストレイトスローボール、エーストなど秘術を盡して投球する守備の七八割は投手が引き受けるものと云つてもいい。打者もまた精進をめて投手を打ちまくらうとする。上手な打者になると高低緩急遅速その他缺點と云ふのが一つもなく、どんな球でも打てる様になる。なんでも守備者の捕り得ない球を打てば安全球と云つて安全に一塁を得ることが出来る。グリーンと打つて一塁まで進み得るのか三塁打一拳ホームまで走り入るのか、一塁に一點を入るのかホームランである。野球の規定や戦術の一般を呑み込む

のは一寸みれば面倒でも實際自分で行つてみると案外簡単に覚えられる。どうしたら野球を自分でやる事が出来るかと云ふと、一番肝要なのは球を正確に投げ取る事である。つまりキャッチボールが上手になること、こんどは出来るだけ機会をみつけて、人に球を投げて貰ひ打ち方を練習する。第一に球を怖れぬ事。軟球なんぞでは力に及ばない。でも怪我をする様な事は決してない。そして最後はベースランニングが之は相当の腕力さへあれば問題でない。諸君もこれまでの要件を呑込んで練習さへすれば、相当の野球選手になる事が出来るだろうと思ふのである。

平町青年團

探勝旅行に加はりて

藁谷北露記



秋もやう／＼深く、早や深山に
初雪のたより聞く霜月十二日。
朝霧未だ晴れざる午前六時、吾
等一行十二名は二台の自動車に
分乗、本邦有数の名勝地日光並
に栃木縣下奥鬼怒の探勝に赴
す。
朝霧の中から響き渡る明けの鐘
に見送られ、自動車は奥街道
を水戸に向つて快スピード、
車窓からの眺望は宛ら絵を見る
如く、緑濃き鮎川の松並樹、道
路近く太平洋の波の岸け散る風
趣、さては紫の色深く錦を飾る
山々の景色、進行につれて展開

する周辺の風光に、一同喜悅の
色深し。
其のむかし「此の関を勿末の関
と思ひども道もせに散る山櫻か
なし」と漁義家の歌つた勿末の関
を一本の標木に往時を偲びいよ
いよ茨城に入る。脈々とした山
肌の際に天を撫す、東洋第一と
誇る日光銅山の太煙突を右にし
て、午前九時、久慈浜に着く。
此処に一時の休憩して、やがて
梅の名所水戸を通過、正午近く
笠岡に入る。社宇宏壮なる事成
田不動と並称さる、紋三郎稻荷
に、団員各位の御幸福を祈る。

境内の処々に菊花壇あり、今を
盛りに咲く床かしき菊の香に誘
はれて、觀賞する事や／＼しぱし
忙しき中食をとり出奔の準備。
幸に午前中の雲天も何処へやら
晴れに晴れ渡りたる絶好のドラ
イヴ日和。一同幸先よしとばか
り益々元気に満ち、午後一時砂
壺を蹴つて一路結構を語る日光
へ。
釣天井で有名な守都宮を一巡し、
座沼より日光例幣使街道の薄暗
き杉並木の中を北進、戊辰の戦
場として名高き今市を過ぐるこ
と約三里、左右の連山漸く相迫
る間をエンゲンの音高く登り行
く程に、祖界は忽ち開けて日光
山中男体、女体の山容を認め日
光の町に入る。
通りの両側は旅館や名物をひさ

ぐ家々、自動車は降りして大
谷川の假橋に至る。左に朱欄金
球の神橋あり、清流に其の影映
じて美麗絵くが如し。
自動車は老杉畫尚暗き長坂を登
りて輪王山門跡に停車、時に午
後三時半。
冷気烈しく流石は海拔一千尺以
上なることを感じ、肌寒をオー
バーの衾に包みて、境内の拜觀
を求めたが時間外の事として許さ
れず遺憾ながら、外苑だけを拜
觀す。老杉鬱蒼として高く、日
に觸る、もの總てたゞ神々しい
感に打たるゝのみ。
先を急ぐ吾々は、自然の秀麗人
工の精華相俟つて雙美の盛名を
獨占してゐる日光に、名残惜し
くも後日を約して、今宵の泊り
鬼怒川温泉に自動車を走らす。

西山に彩り染めた暮雲の紅もやうやう薄れゆきて、新高徳の二又路より会津西街道に入りし頃は、夕日は既に余光を収め灰色を流した。薄暮の空には、明星の影がきらめき初めた。車窓を透れ来る夕の冷気は身に沁みて寒さを覚ゆ。やがて東洋一の鬼怒川奔電所の数限りなき燈火を左に見て、日本三大橋の一つである中岩橋を渡り疾走すること少時にして、憧憬の鬼怒川の温泉町が目前に表はれた。

二十
灯映じ、其の美観は言語に盡すあたはず。漸々吹きすさぶ一陣の風は蕭々として山を鳴らしてゐる。

早速旅装を解き一回の車旅の勞を温泉に流して樂しき宴会を開く。鬼怒川小唄に温泉情緒を充分味はひ。磐城名物盆踊、或は平小唄を紹介して大賑はひ。粗食ながらも山中の馳走に舌鼓を打つ。殊に鬼怒川名産「つぐみ」の丸焼きは珍味中の珍味であつた。

九時半宿の寝巻姿も面白く、冷風に酔顔を吹かせたら、三々五々名物あさりに出かける。宵闇の彼方此方に袖引く女の手を拂ひ、夜の更ける十一時帰館。夜更の中から首だけ出して、感想談に時のたつのも知らず。

明くれば十二日、激流の音に夢破られて、七時床を飛び出す。先ず湯に入り晴爽な気持ちで朝餚の膳につく。出奔までの時間を各々溪谷の美を探勝に出る。名も未しき小佐越橋に立ち上流を望めば、兩岸は絶壁にして深く、大凶器の奇巖に絶水玉と砕くるさまは、全く壯絶の極みである。

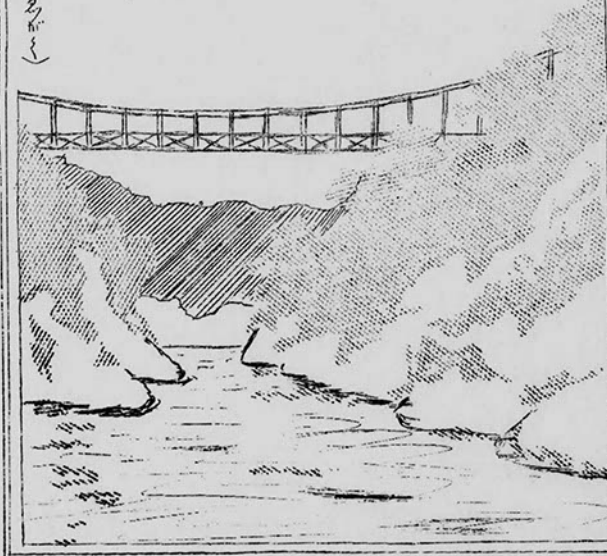
二十
眞なりと愈々感を深くする。何時迄眺望してもあきるを知らざれば、時既に十時なれば、岩流と奇岩の絶勝鬼怒川に別れを告げ帰郷の途につく。

鬼怒川の流れに添ふて、日光北街道を矢板町に出て、左に那須山を望み、那須野原の白道を五十哩のフルスビートで快走。陸羽街道を「都」をば霞と共に立ちしかど秋風を吹く白河の関と歌はれた。白河に、鬼怒川を出てより三時間にして早や到着。駅前にて空腹を整ひる間、女中と相手を名所並に名物を尋ね、粗談に約一時間半の時を過し出奔となる。

白河の城跡を左に見て、三時や、過ぐる頃牡丹の名所須賀川を通過して、田母神峠の九折坂を

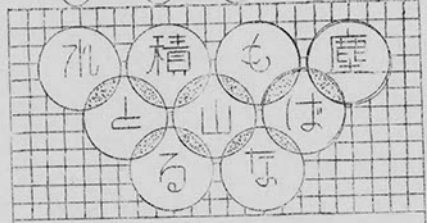
越え 陽既 面に 峰 ちし 頃 下弦 の月 淡く 辺り は黒 き幕 に包 まれ て 夕景 格別 なら んと期待せし川前の溪流の勝も、

鬼怒川小唄
 息もつぎに
 坂道きこたに
 怪くやぐれの
 ササコラ
 ヨイヨイ
 湧り出でけろぞい
 小佐越橋で
 おれと涙の
 袖めりり
 ハたらしや
 来てえな
 寄つて見なハイ
 鬼怒の川瀬の不
 湯気
 まやわく
 (世露多か)



様な灯が走り、ドス黒い山々が

小野新町を過ぎし頃は夕一紅葉の美も今は見えず。 噺豆の



走馬燈のやうに出没するのみて
 ある。
 自動車は暗黒の中をハットライ
 トを輝して、平へ平へと進衛し
 てゐる。
 吾々は車中にありて鬼怒川一夜
 の快夢を繰返しつつ、不夜城と

化せし平へ帰着せしは、七時を
 過ぐるこゝ約十分。
 日光の秀麗、鬼怒川の絶勝共に
 吾が眸裡に印され、長く萌え
 去らぬであらう。
 噺呼
 樂しかりし探勝の旅よ、
 (三)

至極ありふれた話題ながら、さて讀んで見ると成程
 と感心させられる。即ち「塵も積れば山となる」の
 はなし。
 我が分団の団員が現在三十九名ある。此の三十九名
 を暖簾番と見て、諸君が一団一本宛の敷島を節約
 すると、一々同十圓五十三銭、これを十ヶ年 継
 續すると、千二百八十三圓六十銭と言ふ数が出る。
 又吾々三十九名が毎回一本二十銭宛の晩酌をやると
 假定すると、十年後には何程になる？ 諸君驚く勿
 れ、二萬八千。八圓と云ふ莫大なる金高となる。何と
 驚き入つた次第ではないか？
 (経済博士)



新青チーム主將 S君に對小

ワラガイ生

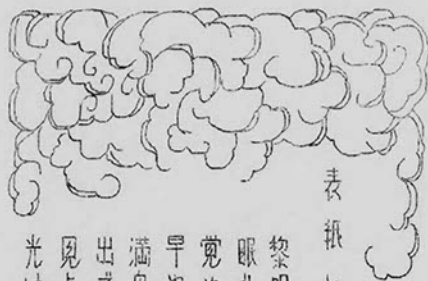
白銀五A—三新青。最後に宣せられ勝敗の運命である。朝に星を頂き夕に露を踏み、勝を期して猛練習を續けしも幾過も。今日の幸ある栄冠を獲せんと。雄々しくも起つる王将の選手。戦ふ以上必らず勝つ。無二無三に勝つ。分國名宛のため。……

敗北の内は。如何に張り裂くる患ひであつたらう。又奮戦の跡をかへり見た時。諦めやうとして諦め切れぬ總て。あつたらう。然し人力の如何ともすべからざる運命である以上。總ては諦めなければならぬ。……



い、であらうが。今日の敗者は明日の勝利をめぐして。常にベストを盡すこそ眞のスポーツマン精神であると思ふ。君がグラウンドの一隅にあつて。流した幾條かの惜涙こそは。明日の力を作る奮奮の勇い涙であらう。

つた事と思ふ。其の惜涙の味を忘れず。益々勇往邁進して次回の栄冠を獲せられん事を望む。敢て主將S君にこの愚言を獻げる次第である。昭七。十。十七。



表紙に就いて

黎明は近うけり。眠れるもの。—— 疲れたるもの。—— 覚めよ。—— 起てよ。—— 早や。光は東方に輝けり。満身新なる光輝に照らされながら。出て立つべき時は来たりぬ。見よ。——

光は東方に輝きわたるにあらずや。北露



亡ぶ肉塊

多岐路

暗い闇の底に一個の肉体が横はりして眠つてゐる。これは父だ。場末の工場で日々瘦せ細つて行つた父だ。彼女は今職業もない。ついで一週間の間は女工と云ふ職業を持つてゐたが。自分も自由になる金もない。それ故彼女は、今は巷に出て日光を浴びる事すら出来ないのだ。彼女の足知らぬ人の家の湿気の多い四畳半の部屋で今彼女は眠つてゐる。灯を消した部屋の隅の底に横たはる其の肉塊は、丁度陸に上げられた鯨の脂肪の様に、黒い空の中にもぼんやり白く見える。青白い肉体！そしてそれは青白いフオークの様に艶がないのだ。彼女の約はこの一週間の出来事を物語つてゐた。暴風雨——難船——父の死——そして……あゝもう考へたくない……！

彼女は闇の底に、蒼白くぼんやり浮いた彼女自身の寝顔を見詰めた。いつか夜店で見た叩き鬻りのバナハの一つの様に、横たはつてゐた。

眠つてゐる。眠つてゐる。今自由になる金もないのだ。

病む母。多くの弟妹。

親戚が追めるこの身賣り。羽囚は遠い所へ連れて行かれるのだ。歳だつて確つかりした事はわからない。十九とは太ふけ水ど……！彼女は見詰めた。微かな音が起つた。血だ。徳利だ。意地悪鬼な年増女が、大きな桶で洗つてゐる音だ。一ツニツミツ。テールの上に皿がのつた。急に無表情だつた皿が、コークスの様な味気ない形を示した。

「私だつて職業婦人だ……！」

誰かそんな事をほそく……と呟いてゐる。ほそく……と。誰がそんな呟きに耳を傾けるものか。そんな嘆きに何の力がある。トン、トン、トン。雨が降つてゐる。夜の底を雨が小やみなく降つてゐる。

変な夢を見たものだ。そして変な考へを浮べたものだ。と彼女は思つた。

うつら／＼と雨の音をきいた。外は夜明けだ。戸のすきまから漏つた土地に投げ込まれた新聞紙の、すこし濡れて青く光る上に、冷たい朝がだん／＼降り集る様に集つた。

分團日誌		昭和七年十二月廿八日		並に臨時忠魂祭に	
廿八日	月見町相本弘君入宮歡送	長の参加を得て豊岡村薄儀謝儀清苑	十七日	分團長旗台参列	分團長旗台参列
廿八日	丹野副團長宅に幹部会開催	廿八日	平野に弔迎	白銀五A三新青	白銀五A三新青
廿九日	大神宮祭典	廿九日	谷長治氏葬送参列	十九日	第三小学校主催関係区分団對抗競技に参加優勝
三十日	余興交渉委員奔走	三十日	本團臨時總會に出席	廿二日	大野村玉山に一回の清遊
三十一日	八坂神社典	三十一日	本團臨時總會に出席	廿八日	中野喜平君除隊歡迎
一月一日	神宮祭典準備	一月一日	本團臨時總會に出席	廿九日	本團報誌編輯
一月二日	夜に入り新団員勧誘	一月二日	本團臨時總會に出席	二月一日	本團主催本縣下見学旅行に参加翌日帰町
一月三日	大神宮宵祭	一月三日	本團臨時總會に出席	二月二日	奉告祭に参列
一月四日	大神宮本祭	一月四日	本團臨時總會に出席	二月三日	青年講座に参加
一月五日	大神宮本祭	一月五日	本團臨時總會に出席	二月四日	編輯委員会開催
一月六日	本団体育部委員会に團長並に渡辺榮吉君出席	一月六日	本團臨時總會に出席	二月五日	同情週間
一月七日	本団正副団	一月七日	本團臨時總會に出席	二月六日	同情週間

火防日誌

自昭和七年一月四日
至全 年 十二月十二日

一月一日	平消防出初式に招待あり組合長出席	一月十二日	定期電検査執行
一月六日	区長宅を訪問 被服修理並に器具新調方申請	一月十七日	夜杉平に雨中火災あり消火に力む
一月十日	定期電検査執行 終つて火防組協議会開催	一月十七日	横峯田町に火災あり協力消火に力む
一月十七日	火防デーに付き消防組と協力電検査執行	一月十八日	平署に於ける防火講演會に組合長並に吉田副組合長出席 消防組と協力電検査執行 終つて火防協議会開催
一月二十日	消防組指導の下に救木練習す	一月廿二日	火災頻繁に鑑み夜警備開始 廿六日迄續行 以後翌五回
一月廿四日	定期電検査執行	一月廿五日	定期電検査執行
一月廿七日	定期電検査執行	一月廿八日	定期電検査執行
一月三十一日	定期電検査執行	一月三十一日	定期電検査執行
二月一日	定期電検査執行	二月一日	定期電検査執行
二月二日	定期電検査執行	二月二日	定期電検査執行
二月三日	定期電検査執行	二月三日	定期電検査執行
二月四日	定期電検査執行	二月四日	定期電検査執行
二月五日	定期電検査執行	二月五日	定期電検査執行
二月六日	定期電検査執行	二月六日	定期電検査執行
二月七日	定期電検査執行	二月七日	定期電検査執行
二月八日	定期電検査執行	二月八日	定期電検査執行
二月九日	定期電検査執行	二月九日	定期電検査執行
二月十日	定期電検査執行	二月十日	定期電検査執行
二月十一日	定期電検査執行	二月十一日	定期電検査執行
二月十二日	定期電検査執行	二月十二日	定期電検査執行
二月十三日	定期電検査執行	二月十三日	定期電検査執行
二月十四日	定期電検査執行	二月十四日	定期電検査執行
二月十五日	定期電検査執行	二月十五日	定期電検査執行
二月十六日	定期電検査執行	二月十六日	定期電検査執行
二月十七日	定期電検査執行	二月十七日	定期電検査執行
二月十八日	定期電検査執行	二月十八日	定期電検査執行
二月十九日	定期電検査執行	二月十九日	定期電検査執行
二月二十日	定期電検査執行	二月二十日	定期電検査執行
二月二十一日	定期電検査執行	二月二十一日	定期電検査執行
二月二十二日	定期電検査執行	二月二十二日	定期電検査執行
二月二十三日	定期電検査執行	二月二十三日	定期電検査執行
二月二十四日	定期電検査執行	二月二十四日	定期電検査執行
二月二十五日	定期電検査執行	二月二十五日	定期電検査執行
二月二十六日	定期電検査執行	二月二十六日	定期電検査執行
二月二十七日	定期電検査執行	二月二十七日	定期電検査執行
二月二十八日	定期電検査執行	二月二十八日	定期電検査執行
二月二十九日	定期電検査執行	二月二十九日	定期電検査執行
二月三十日	定期電検査執行	二月三十日	定期電検査執行

二十日 消防組合長会議に出席
廿一日 大風に付き町内警戒並
に定期電検査執行

五日 月

二日 午前〇時南町に火災あ
り出勤消火に勉む

五日 定期電検査執行

十五日 全

十九日 深夜紺屋町に火災あり
鎮火に盡力す

廿四日 定期電検査執行終つて
ホース小屋移轉問題に付き区

役員宅を歴訪促進運動す

今期定期電検査終了

六日 月

十日 平消防組の防火演習見
学

十三日 消防宣傳ビラ配付

八日 月

一日 拂曉南町火災あり出勤
十五日 より十七日まで四盆の
ため町内警戒備

十日 月

十日 今期第一回の定期電検
査開始終つて協議会開催

廿五日 定期電検査執行

十一日 月

一日 組合長会議に出席

四日 消防組協議会開催

五日 消防デー、防火運動に
絡む勉む

十四日 深夜大暴風雨町内警戒

十五日 増水警備に当る

十六日 拾獲稻束整理に出勤

廿五日 定期電検査執行

十二日 月

十三日 定期電検査執行

(完)